

第3回「大人のためのブックトーク」開催しました!

8月13日 I A M A S 小林図書館長と当館司書による本年度3回目のブックトークが開催されました。軽快なトークで、今回も多様な分野から本が紹介されました。

『ゴジラと東京』野平宏平
一迅社 2014年発行

昭和29年の東宝映画『ゴジラ』によって、われわれの都市はたびたび巨大怪獣によって席捲されつくした。だが、都市は何度も甦った。しかし、彼らはなぜいつも都市ばかりを破壊しようとするのか?その問いは初代ゴジラから現代のシン・ゴジラに至るまで連綿と語り継がれている。本書は、映画のみを参照しながら1969年までに公開された怪獣映画における都市論が展開されている。本書の筆者が、怪獣だけでなく、はとバスに関する図鑑の執筆もしていることを考えると、ゴジラの「破壊経路」が一気に見えてくる。映画論としても都市論としても読める一冊。



『電気は誰のものか』田中 聡
晶文社 2015年発行

わが国で初めて街灯が試験点灯されたのが明治15年。現在の原発の問題まで、電気はわれわれの生活と切り離すことのできないものである。では、本当に「もの」なのか?それであれば窃盗の対象になるのだろうか?筆者はそこから問題を説き起こし、全国各地で展開された電気騒動をつぶさに検証してゆく。読み進めれば、人びとの「電気」という科学的事象に対するあらゆる視線の交差によって「現在」が成立していることがよくわかる。皇居の伝統設備や電気椅子の話など、電気にまつわるさまざまなエピソードが含まれた、豊かな一冊。



『市川中車 46歳の新参者』香川照之
講談社 2013年発行

2013年、一人の歌舞伎役者が誕生した。俳優香川照之改め九代目市川中車である。誰もが疑問に思う、歌舞伎における襲名について。また役者という職業について、さらには母と子、父と子について、真摯な語り口で進められる本書は、親子というもの、芸の継承というものについて深く考えさせられる。「私は自分の家系とこれまでの俳優としての経験とを照らし合わせて、自分なりの道を獲得した」と新中車が記すように、歌舞伎役者に限らず、およそ転職を与えられたと感じ、日々生きている市井の人びとに強い共感を与える、元気の出る一冊。



【岐阜県図書館：鈴木智草司書によるおすすめ本の紹介】

『ディック・ブルーナのすべて』メルシス社：監修
講談社：編集 1999年発行
『ディック・ブルーナ』ディック・ブルーナ
講談社 2005年発行

○感想等

- ・市川中車の本をぜひ読んでみたいと思った。小林先生は、読書に引き込ませる力がすごいと思った。
- ・初めて参加しましたが、興味ある内容ばかりで分かりやすかった。
- ・毎回参加するのが楽しみです。歌舞伎が好きなので、中車の本を読んでみたいと思います。次回のTシャツも期待しています。
- ・先週「ゴジラ」を見たばかりだったので、自然に反するものを破壊するゴジラという『ゴジラと東京』の話がおもしろかった。
- ・3冊とも興味のある内容なので、早速読みたいと思います。
- ・おもしろかったです。うんちくすごいですね。どの本も読んでみたくなりました。
- ・小林先生の話、楽しく聞かせてもらいました。
- ・紹介された本は1冊も読んでいませんが、新聞の書評欄ではないですが、話を聞くだけで読んだ気分になることができる、楽しい時間です。人生論を聞いているようでもある。
- ・非常にユニークな論法で、興味をもたせる講演で、楽しく聞かせていただきました。願わくば、もう少しゆっくり話していただくとよくわかったかな。

下半期も開催予定

11月19日(土)・12月24日(土)

1月14日(土)・2月18日(土)

14:00~15:15(13:30開場)

無料、申込不要(当日先着60名)